

科目名：表現技法Ⅰ		配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間：1 単位（1 5 時間）		授業の方法：講義	
担当者：濱野 秀樹		実務経験のある教員による授業 □	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 看護は対象の心情や状況を読み取り介入する。その為ここでは書かれた文章を正しく理解し、利用し、熟考する能力を養う。さらに読解力が低いと文章力も低くなる。文章作成の基本と共に、文章上だけでなく適切な伝え方についても思考し、知的活動でも社会生活でも実践的な日本語の運用能力を身につける。 【目標】 1. 言葉をめぐる様々な概念を理解し、適切に応用できる。 2. 日本語による文章作成の基本的な能力を身につける。 3. 適切な表現方法で自分を表現できる。		
授業の計画	1. 自己紹介の作文作成 2. 3. テーマ沿った参考作品の読み合わせ・グループ討議、テーマに沿った作文作成 4. 作者の意図を考察、発表 5. 提示作品の難語句、優れた表現についてグループワーク 6. 提示作品の感想討議 7. 提示作品から修飾。句読点について 8. まとめ、試験		
成績評価の方法・基準	演習課題、最終試験の総合評価とする。		
テキスト	【教科書】 なし 【参考文献】・		
履修上の注意事項	教材に使う「文章」に対してわからない言葉等は予め調べて参加する。 提示した課題（作文を書く等）には主体的に望むこと		

科目名：表現技法Ⅱ	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間：1 単位（15 時間）	授業の方法：講義	
担当者：濱野 秀樹	実務経験のある教員による授業 ☐	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 看護者にとって、事象を分析的・論理的に思考し科学的なものの表現方法を身につけることはすべての基礎として重要である。表現方法Ⅰをうけて、ここでは討議を行い他者の見解・批判を取り込んでさらに考察を進めるとともに、プレゼンテーションの実際を体験する。 【目標】 1. 討議において、肯定的・批判的意見をだす技能を身につける。 2. レポートの内容をまとめて、発表する技能を身につける。	
授業の計画	1. 作文、敬語の基本、例文を用いた演習 2. ロールプレイング台本作成・練習・発表 3. ビブリオバトル、紹介本をプレゼンする作文、グループでのバトル・チャンプ決定 4. 全体での上記 5～7. チャンプ本の紹介、小論文作成の説明、執筆 8. 試験	
成績評価の方法・基準	理解度確認レポートや平常点（小テスト・課題等の提出物）を総合して評価する。	
テキスト	【教科書】 なし 【参考文献】	
履修上の注意事項		

科目名：看護情報学	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期・後期
単位・時間：1 単位（30 時間）	授業の方法：講義・演習	
担当者：市村 富保	実務経験のある教員による授業 ☐	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 コンピューターや通信ネットワークの進展が著しい現代においてあらゆる分野で情報技術・通信技術が活用されている。ICT を用いて看護に必要な情報を入手し、入手した情報を正しく活用する力、情報を適切に管理し、マネジメントする力、医療において ICT を活用することの課題を理解する基礎的能力身につけることを目的とする。 【目標】 1. 情報技術の発展と社会の変化について理解する。 2. 情報倫理について理解する。 3. PC の仕組みと機能、インターネット、情報セキュリティの基礎を理解する。 4. 学習や社会生活の場面で安全、効果的に PC や通信ネットワークを利用できる。 5. 保健医療・看護の現場でどのように情報が取り扱われているかを知る。	
授業の計画	1. 情報社会における ICT の活用、情報セキュリティ 2. 情報の定義と特徴、コンピューターリテラシーとセキュリティ 3. Word の基本操作（実習） 4. 情報倫理、個人情報の保護 5. 医療情報の内容、医療情報の開示と取り扱い 6. 保健医療と情報、看護と情報 7. 社会保障制度、医療・介護のデータベースとその活用 8. 医療 DX、病院情報システム 9. Excel による統計解析（演習） 10. ヘルスケア政策 11. 地域医療と情報技術 12. 統計（目的・主な統計解析） 13. Excel 操作：表計算のレポート作成、リストを利用し入力規則設定、印刷設定（演習） 14. 看護情報学の振り返り／まとめ 15. 試験	
成績評価の方法・基準	演習課題、最終試験の総合評価とする。	
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 e テキスト 【参考文献】	
履修上の注意事項		

科目名：生物学		配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間：1 単位（30 時間）		授業の方法：講義	
担当者：牧野 彰吾		実務経験のある教員による授業 ☐	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 生命体の特性、生殖と発生、外部からの刺激の受容や内部環境の維持について理解し、広く生命現象に係る知識を習得する。特に人の体の構造及び機能に関して学び、体の各部分の機能の低下と病気との関係について理解する。また栄養素について学びどのように体内で利用されるのかについて理解する。 【目標】 1. 生物の基本単位である細胞の構造や機能、および細胞が集まって形成される組織や器官について理解する。 2. 生命活動に必要な栄養素や、体内で起こる物質代謝について理解する。 3. 生物が受精によって遺伝物質を親から子に伝える仕組みや受精卵が分化する過程について理解する。 4. 再生医療とはどのような医療なのかについて理解する。		
授業の計画	1. 2. 病原体、細菌とウイルス 3～8. 細胞とその構造、細胞の化学成分、細胞膜の輸送 9～12. 有機物のつくりとはたらき、生体維持のエネルギー 13. DNA 14～16. 細胞分裂、遺伝の法則と染色体 17. 18. ヒトの遺伝 19. 20. DNA の構造と転写・翻訳 21～24. ゲノム編集、DNA 鑑定 25～29. 分化、生殖と発生（生殖・再生・クローン・再生医療） 30. 試験		
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%		
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 基礎分野 生物学 医学書院 e テキスト 【参考文献】		

科目名：英語	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間：1 単位（30 時間）	授業の方法：講義	
担当者：MARTIN WOODALL	実務経験のある教員による授業 ☐	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 看護現場の国際化は多種多様となって、異文化交流は今後看護にとってさらに必要となってくる。当校では、「論理と表現」とともに言語は違えども、論理的に文章を解釈し、読み、聞く、自分の考えを表現する能力を身につけてもらうことをねらいとする。 語学の基本は語彙力と文法力である。英語のルールを学び、文法を確認しながら聞く・話すといった基礎的な英語力を身につけると共に英語でのコミュニケーションに対する積極的な態度を身につけてもらいたい。さらに基礎的知識としての語学力の向上とともに、医療現場で使われる英単語や会話に触れ、多様な対象とのコミュニケーション能力を身につけることをねらいとする。 【目標】 1. 基本的な英語構文を使用し、読解さらに聞く話すことができる。 2. 医療現場で使われる英単語や英語での訴えに対する返答、挨拶等が理解できる。	
授業の計画	1. 2. 構文の分析、例文の読解 3～6. 基本的英語構文による会話 7. 8. 医療英語：身体各部・器官の名称、病名・症状等の医療英語 9～13. 看護師のための英会話、医療関係記事やエッセイの読解 14. 学習効果 ポイント確認 15. 筆記試験	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	【教科書】 LIFESAVER Basic English Medical Situation Macmillan LanguageHouse 【参考文献】	
履修上の注意事項		

科目名：生命倫理		配当年次 2 年	開講時期 2 年後期
単位・時間：1 単位（30 時間）		授業の方法：講義	
担当者：佐藤 桃子		実務経験のある教員による授業 □	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 看護を学ぶものとして、人間存在についての幅広く、全人的な視野を獲得し、一人ひとりの患者に関わることの意味や態度について基本的な理解を得ることをねらいとする。 【目的】 1. 人間の生命に対する基本的理念および倫理観を養い、医療場面で課題となる事項について考え方や価値観を明確にする。 2. 死をめぐる現代医療の課題についてさらに自発的学習を深めることができる。(演習)		
授業の計画	1. 2. 倫理学の基本的な考え方 3. 4. 生命倫理 5～7. 性と生殖の生命倫理 8～10. 死の生命倫理 11～14. 先端医療と制度をめぐる生命倫理 15. 試験		
成績評価の方法・基準	課題レポートと筆記試験を合わせて 100% で評価する。		
テキスト	【教科書】 市民のための生命倫理：伊坂青司、(神奈川大学評論ブックレット) 御茶ノ水書房 【参考文献】 配布資料		
履修上の注意事項			

科目名：生涯発達学		配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間：1 単位（30 時間）		授業の方法：講義	
担当者：飛高 和浩		実務経験のある教員による授業 ☐	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 人間は生涯を通じて発達する存在である。看護の対象である乳児期から老年期まで各期の発達段階について身体的・心理社会的発達を概観し、看護の対象理解や人間が人との関係のありさまに相互に影響されながら成長発達する存在であることを理解し、変化する発達段階に応じた看護が展開できる素地としたい。また自己理解につながることをねらいとする。 【目標】 1. 生涯発達について基本的視野や要素を理解する。 2. 人間の成長発達加齢の過程の特徴を生涯発達の考え方に基づいて理解する。		
授業の計画	1. 発達、遺伝説・環境説 2. ピアジェの発達段階、保存の概念、自己中心性、シエマ・同化・調節) 3. エリクソンの発達段階 4. 運動機能の生涯発達 5. 感覚モダリティ、知覚・思考、視覚異常、感覚の成立条件、錯覚・錯視等) 6. 認知の発達、問題解決、帰納的・演繹的推論 7. ミニテスト 8. 言語の発達（言語的・非言語的コミュニケーション、外言・内言ヴィゴツキー等) 9. 情動の発達（感情表出、形態感情、情動の分化) 10. 知能の発達（因子分析、他因説、多重知能理論、知的障害等) 11. 記憶の発達（海馬、小脳、感覚・短期・長期・運動記憶) 12. 愛着の発達（一次的・二次的欲求、ローレンツ、インプリンティング、ボウルビー等) 13. 性格の発達（気質、トマスとチェス、パーソナリティの構造等) 14. まとめ 15. 試験		
成績評価の方法・基準	課題点（20%）、最終試験（80%）の総合評価とする。		
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院 e テキスト 【参考文献】		
履修上の注意事項			

科目名：生涯教育		配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間：1 単位（3 0 時間）		授業の方法：講義	
担当者：大山 博幸		実務経験のある教員による授業 ☐	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 人間の成長発達と学習、社会教育について学び、看護における教育の役割および生涯教育の必要性を理解する。 【目標】 1. 人間の成長発達と教育との関連について学び、自己の生涯的な教育・成長が看護に深くかかわっていることを理解する。 2. 看護師として必ず行う患者教育を模擬実習し、フィードバックする中で、教育評価の意義、自己評価の意義を明らかにするとともに教育方法を整理する。 3. 生涯学習とボランティア活動の関係がわかり、ボランティア活動に必要な基礎的知識が理解できる。		
授業の計画	1. 2. 教育とは何か、教育の三領域、社会教育 3. 4. Education の語義・語源、教えると育てるの違い、ホリスティック教育の3つの学び ライフストーリーデザインマンダラ、学習経験 5. 6. 学習とは何か 生涯教育の思想 7. 8. 生涯教育の展開（ジェルピの思想、生涯基盤教育、ユネスコの動向）日本の生涯学習政策、エコマップ 9. 10. コミュニティナースの活動、地域ボランティア活動（子供の居場所支援） 11. 12. 成人学習論、大人の学びと子どもの学び、成人学習の特性 13. 14. 省察的学習と省察的実践、生涯発達論、継続教育の基準、倫理綱領 15. 試験・まとめ		
成績評価の方法・基準	出席点、平常点、最終試験の総合評価とする。		
テキスト	【教科書】 【参考文献】 『聴く』ことの力 鷺田清一 著 TBS ブリタニカ 「カウンセリング第4版」伊東 博 著 誠信書房		
履修上の注意事項			

科目名：文化人類学		配当年次1年	開講時期 1年後期
単位・時間：1単位（30時間）		授業の方法：講義	
担当者：植村 清加		実務経験のある教員による授業 ☐	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 人とその生活を理解するためには、背景にある文化を理解する必要がある。文化によって異なる家族や宗教などの様々なありかたを学ぶ。 その中で自分の常識や暮らしぶりがいかに限られたものであるのかを知り、多様な生活様式・言語・習慣・ものの考え方などを尊重することを学ぶ。 【目標】 1. 現代社会が多様な価値観に基づく複合社会であることを認識できるようになる。 2. 相手を尊重し相手を深く知ろうとする姿勢を身につける。 3. 論理的思考ができるようになる。		
授業の計画	1. 文化人類学とは、研究方法の特徴（フィールドワークとエスノグラフィ） 2. 3. フィールドワーク、エスノグラフィ、フィールドエクササイズ 文化人類学の研究方法、質的研究の特性、文化相対主義、暗黙知と実践、質的側面からみる空間と身体等 4. 構築主義的アプローチ、ジェンダー 5. 6. エスノグラフィ（第三の性と社会的枠組み、病気の経験とナラティブ、病の経験をよむ） 7. 8. 家族のかたち（家族構成の多様性と文化、生物学的・社会学的父母） 9. 家族（生殖補助医療と家族） 10. 11. インタビューの実際（質的研究、ナラティブアプローチ、開かれた質問、文脈の理解） 12. 地域医療へのアプローチ（病気とともに生きる人々、健康・病気の概念、医療） 13. 14. 地域医療（地域で暮らす・看取る、QOL、ケア実践のプロセス、相互関係） 15. 試験・まとめ		
成績評価の方法・基準	講義にてグループワーク・インタビュー・発表等を行う。 筆記試験 45% 上記 55%		
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 医学書院eテキスト 【参考文献】		
履修上の注意事項			

科目名：人間関係論Ⅰ		配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間：1 単位（5 時間）		授業の方法：講義	
担当者：松林 幸一郎		実務経験のある教員による授業 ☐	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 看護は人間関係を基盤として展開される援助過程である。看護者としての人間のあり方や対人関係の持ち方など、人間関係や人間の行動そのものを理解することが必要になってくる。ここでは人間関係作りの基礎的知識を理解する。 【目標】 1. 人間関係向上に向けた基礎的知識・技術を理解する。		
授業の計画	1～4. 人間関係論の基礎・理論、グループワーク 人間関係の中の自己と他者／対人関係の役割／態度と対人関係／集団と個人 5～8 人間関係を作る理論と技法 コミュニケーション／カウンセリング／コーチング／アサーティブコミュニケーション／ナラティブアプローチ 8. 試験・まとめ		
成績評価の方法・基準	出席点、平常点、最終試験の総合評価とする。		
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院 e テキスト 【参考文献】		
履修上の注意事項	講義と共に演習を組み込む。		

科目名：人間関係論Ⅱ		配当年次 2 年	開講時期 2 年後期
単位・時間：1 単位（30 時間）		授業の方法：演習	
担当者：重藤 誠市郎		実務経験のある教員による授業 ☐	
業概要 目的・到達目標	【講義内容】 人間関係論を学ぶことにより看護の対象となる人間理解、関係作り、指導力を養うための第一歩として、自分を知り、自分自身の人間成長を促し、誠実な態度で他者と向き合える姿勢を養う機会とする。 ここでは、体験を通じて協力と信頼について思考し、集団の中でのリーダーシップ・メンバーシップ、さらにはコミュニケーションといったスキルを学習する。 【目標】 1. 自分と他者・自分と集団の関係の持ち方やあり方を考察する。 2. 良好な人間関係を築くための知識とスキルをトレーニングする。		
授業の計画	1. 自己認知、対人認知 2～4. ①課題ワーク・実技テスト 5. 対人関係の維持と崩壊、対人葛藤と対処、社会的役割 6. ①課題ワーク・実技テスト 7. ①課題ワーク・実技テスト／②課題ワーク 8～10. ②課題ワーク・実技テスト／③課題ワーク 11. 12. ③課題ワーク 13. 14. ③実技テスト 15. グループ対抗レクリエーション		
成績評価の方法・基準	積極的な参加姿勢（40％）と実技テスト3回分（20％×3＝60％）で評価する。		
テキスト	【教科書】 【参考文献】		
履修上の注意事項			

科目名：地域の歴史と文化を学ぶ		配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間：1 単位（1 5 時間）		授業の方法：講義	
担当者：坂戸市・鶴ヶ島市担当職員		実務経験のある教員による授業 □	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 本校が所在する「坂戸鶴ヶ島両市ひいては埼玉県」の歴史文化を学び、地域特性について理解する。 歴史を学ぶ意義は、言われたことを鵜呑みにせず本当のところはどうなんだろうと自力で探る力、洞察力や分析力を養えるといわれている。看護の対象である地域で暮らす生活者の理解につながると考える。 【目標】 1. 坂戸市・鶴ヶ島市の地域特性を理解する。 2. 地域社会の構造機能を理解し、人間の生活の場について考えることができる。 3. 地域で暮らす人々が抱える生活の快適さや不都合さに目を向けることができる		
授業の計画	1. 坂戸市の歴史と文化（歴史的特徴、地理・地形に関連した歴史） 2. 坂戸市の行政（概要、課題、まちづくり、取り組み） 3. 鶴ヶ島市の歴史と文化（地理・地形、交通、歴史、産業発展、文化財） 4. 鶴ヶ島市の行政（現状、政策、取り組み） 5. 6. 7 地域特性から明らかになった課題の現状理解のために地域の現状と取り組みについて 関連文献検索と発表準備 8. 発表		
成績評価の方法・基準	授業参加と課題レポートにて総合評価とする。		
テキスト	【教科書】 【参考文献】		
履修上の注意事項			

科目名：スポーツ科学と運動		配当年次 1 年	開講時期 1 年後期
単位・時間：1 単位（30 時間）		授業の方法：講義	
担当者：東浦 拓郎		実務経験のある教員による授業 □	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 バイオメカニクスの基本を理解し、より効果的な身体の動かし方を学ぶとともに、体を動かすことを通じ、スポーツの楽しさ、自他の体調の変化の気づきなどを知り、社会生活に必要な協調性とあらゆる場面に自ら対応していく積極性を身につける。 【目標】 1. バイオメカニクスの基本を理解し効果的な体の動かし方を理解する。 2. 心身のリラックスと体力の維持増進を図る。		
授業の計画	1. 人口統計の指標からみえる健康課題とスポーツ科学の意義 2. 身体活動・運動が健康に及ぼす影響や死亡割合・死亡リスクとスポーツ科学の意義 3. 認知症に関する問題とスポーツ科学の知見からの一次予防 4. 認知機能の評価測定の実践、認知症一次予防の観点からの身体活動、運動効果のメカニズム 5. バランス機能に関わる感覚情報 6. 7. バランス機能の測定評価に関する測定方法と測定の実際 8. 姿勢反射や随意姿勢回復反応 9. 転倒・筋量・歩行速度と歩行 10. 歩行能力に関するテストの実際と評価法 11. 筋量・筋機能低下問題（フレイル・サルコペニア）と筋肥大促進のトレーニング 12. 筋の伸張-短縮サイクルとメカニズム、伸張反射についてと実践 13. 柔軟性と関節可動域、高めるストレッチの効果とメカニズムについてと実践 14. 運動・スポーツが骨に及ぼす影響 15. 試験・まとめ		
成績評価の方法・基準	各講義内での小テスト、技能試験、授業態度、出席を総合して評価する。		
テキスト	【教科書】 【参考文献】		
履修上の注意事項	事前に必要な準備については説明をする。		

科目名：国際協力	配当年次 1 年	開講時期 1 年後期
単位・時間：1 単位（15 時間）	授業の方法：講義	
担当者：武石 礼司	実務経験のある教員による授業 ☐	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 人の移動や交流が活発になるにつれて、保健医療看護の分野においては、エイズなどの感染症、環境問題など国際的視野に立ち地球規模で取り組むべき課題が増加してきている。そのため、私たちが生活する日本に軸足をおき、世界の様々な国・地域と現代日本の相違を学ぶとともに、経済統合や国際的な開発問題、飢餓と貧困、災害救護、地球環境保護などを題材に国際的活動の重要性を理解することをねらいとする。また、これらの題材について学習する上でコンピューターや情報誌等での情報検索が必須となるが、情報の検索、価値判断の力等多くの情報に対応する上での活用方法についても理解する。 また、この科目を通して世界に多様な文化、社会、価値観があることを理解し、その人らしい生き方を受け入れられる姿勢を養う。 【目標】 1. 国際交流と協力の現状を理解し、その必要性や意義を認識する。 2. 世界に多様な文化、社会、価値観があることを理解する。	
授業の計画	1. 2. 災害看護・国際看護学の概要 3. 4. 国際看護学（健康を取り巻く世界情勢と国際看護、国際協力の基礎知識と看護、活動の実際） 5. 6. 国際看護学（国際協力と看護）、国際看護活動の展開過程、国際救護、国際協力の課題等 7. まとめ 8. 試験	
成績評価の方法・基準	授業参加と各課題レポート・筆記試験にて総合評価とする。	
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 看護の統合と実践 災害看護学・国際看護学 医学書院 e テキスト 【参考文献】 武石 礼司：国際開発論－地域主義からの再構築－，幸書房	
履修上の注意事項		